

特定非営利活動法人 野生動物救護の会 会報



RUNNER

Vol.11

◆ 目 次 ◆

2010年度総会の報告……………2

今日のRUNNER

ツ ミ……………4

活動の現場から……………6

ランナー通りの住人たち

タヌキのプルプル……………8

らんなー新聞

帰ってきたアオサギ……………10

ボランティア雑感

ブドウムシは贅沢品?……………11

インフォメーション……………12



2010 年度特定非営利活動法人野生動物救護の会通常総会

平成 23 年 6 月 26 日(日)13 時より神奈川県自然環境保全センター、レクチャールームにおいて会員総数 110 名中出席数 71 名(本人出席 21 名、委任状出席 50 名)で開催されました。

議長三輪早見で議事に入り、第 1 議案として平成 22 年度財産目録、収支計算書、貸借対照表の内容報告、質疑応答を行い満場一致で承認されました。

続いて第 2 議案として平成 21 年度の事業活動報告及び来期の活動予定を報告、質疑応答を行い満

場一致で承認されました。

最後に第 3 議案として役員の改選を行い、渡辺優子氏、佐藤信敏氏、遊佐弘司氏、佐藤幸太郎氏、平沼亜矢子氏、渡辺みずほ氏が満場一致で再選されました。

なお総会後の理事会において、理事長・副理事長の選出が話し合われ、引き続き渡辺優子氏が理事長として、佐藤信敏氏・佐藤幸太郎氏が副理事長として就任致しました。



総会の様子

【2010 年度 NPO 法人野生動物救護の会 活動報告】

(詳細はウェブサイト参照:http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/katudou/media4/2010%20katudou_houkoku.pdf)

1. 傷病鳥獣救護の直接的活動

傷病鳥獣の救護ボランティア	通年	自然環境保全センター
短期、長期の野生動物の飼養	通年	各自自宅

2. 救護ボランティアを養成する活動

野生動物救護ボランティア講習会 ボランティア講習会修了式	5/15～5/16 9/23	自然環境保全センター
---------------------------------	-------------------	------------

3. 主に会員を対象とした啓発活動

羽根標本作成 羽根標本、骨格標本作成	5/9 6/12 7/11 8/14 9/12 11/14 12/12 2/13	自然環境保全センター
翼、骨格標本作成 羽根標本作成、標本整理	12/11 1/9 3/21	
探鳥会	6/13 7/25 12/25 9/25～9/26	
講演会 衝突調査の報告(高橋恵氏) 絵本<つばめのくるまち>出版から プロカメラマンによる野鳥の撮り方(佐藤信敏氏)	6/27	自然環境保全センター
特別講演会 「人、動物、そして自然～北の動物医の叫び」森田正治先生	12/19	
チョウゲンボウ、オオタカ公開放野	11/17	相模川周辺
第 1 回スキルアップ勉強会「受付のやり方、ヒナ・幼獣の見分け方」	2/19	自然環境保全センター

4. 主に市民を対象とした啓発活動

フィールドスタッフミニ観察会傷病舎案内	4/4 4/24 5/22 7/24	自然環境保全センター
東京バードフェスティバル参加 ルンバ(ツツドリ)参加 動物フェスティバル神奈川2010 in ちがさき・さむかわ参加 ルンバ参加	5/29~5/30 10/3	東京港野鳥公園 茅ヶ崎市役所
ジャパンバードフェスティバル参加 ルンバ参加 2010あつぎ環境フェア参加 ルンバ参加	10/23~10/24 10/31	我孫子市手賀沼親水公園 厚木市中央公園
秦野市立上小学校6年生環境教育 ジロー(ノスリ)、ハリー(コミミズク)、姫子(タヌキ)参加 タウンニュース(秦野)・広報はだの掲載 春の環境教育	6/15 3/31	秦野市立上小学校 自然環境保全センター
平成22年度あつぎ協働大学「実践科目」にて活動紹介 ジロー(メジロ)参加 あつぎ協働大学「実践科目」実習	2/17 3/2 3/9	厚木市勤労福祉センター 自然環境保全センター

5. 情報発信的活動

会報誌 RUNNER VOL7 発行	4/22	厚木市サポートセンター
会報誌 RUNNER VOL8 発行	9/5	
会報誌 RUNNER VOL9 発行	12/7	
ホームページの運営	通年	野生動物救護の会事務局
会員への情報メール発信	通年	

6. 調査・観光的な活動

秦野市立図書館衝突調査	4/30 5/28 6/25 7/30 8/27 9/24 10/29 11/26 12/24 1/28 2/25 3/25	秦野市立図書館
秦野市立図書館衝突痕撮影	11/30	
日本野鳥の会神奈川研究年報17集「BINOS」に「秦野市立図書館におけるバードストライクの実態調査」(高橋恵氏)掲載	11/3	日本野鳥の会神奈川支部
巣箱を設置してのフクロウの営巣観察	通年	丹沢の東側

7. 関係団体との協働的活動

WRV リハビリテーター見学会案内 ボランティア&リハビリテーター交流会	7/25	自然環境保全センター
平成22年度第1回傷病鳥獣保護連絡協議会参加	8/10	かながわ県民センター
丹沢ボランティアネット「里山交流会」ジロー(ノスリ)参加	2/6	秦野市

8. 運営的活動

NPO 法人 野生動物救護の会定期総会	6/27	自然環境保全センター
新旧ボランティア交流会	7/25	自然環境保全センター
大掃除&豚汁大会	12/19	自然環境保全センター

9. その他の活動

青木真弓さん カモについての取材	4/6	自然環境保全センター
秦野市「市民活動サポート事業」支援金公開プレゼンテーション 秦野市立図書館衝突調査について	6/20	秦野市保健福祉センター
新鳥小屋製作開始	3月中旬~	自然環境保全センター



今日のRUNNER



第十一走者：ツミ

ここでは保全センターに運び込まれた傷病鳥獣について保護記録やエピソードを交えてご紹介します。

フワフワの子どもたち

この春、ツミのヒナが次々と保護されました。3羽とも道路などにいるところを保護され、元気はありますが、痩せている状態でした。ツミは保護されない年もありますが、毎年2~3羽保護されています。今回はツミたちの野生復帰までの道のりを報告します。



2011年7月1日 ツミ2号

保護個体データ

	1号	2号	3号
受付番号	110314 巢内ヒナ	110344 巢内ヒナ	110396 巢立ちヒナ
受付年月日	6月23日	6月28日	7月12日
受付時体重	151.3g	152.0g	120.6g
保護場所	海老名市	相模原市	秦野市
原因	不明	巢から落ちる	不明
転帰	7月19日 死亡	7月23日 放野	7月23日 放野
転帰時体重	172.0g	182.6g	164.2g

保護時の様子

1号は2011年6月22日、公園の植え込み伝いに歩いているところを通りがかった人に発見され、保護されました。その人の前でうずくまり見上げ、ギャーギャーと鳴き、手を差し出すと暴れることなく手の中に納まってしまったそうです。助けてくれる人を待っていたのかもしれませんがね。

2号は6月28日に発見され、すぐに保全センターに運ばれ、3号は7月10日に道路上に落ちているのを高校生に発見され、動物病院に運ばれました。数日病院で保護された後、12日に保全センターに搬送されました。

訓練の日々

<1号・2号の訓練開始>

6月30日、1号(180.7g)と2号(168.8g)は野生復帰に向けての訓練の為、短期ボランティア宅に預けられました。これから空を自由に飛び、獲物を捕まえるといった自然界で生きる為に必要不可欠、最低限の筋力・体力・持久力を身につけていくのです。

体重の記録			
	1号	2号	3号
6/23	151.3g	(保全センターへ)	
6/28	152.0g (保全センターへ)		
6/30	180.7g	168.8g (ボランティア宅へ)	
7/12	120.6g (保全センターへ)		
7/13	157.8g (ボランティア宅へ)		
7/19	172.0g (死亡)		
7/20	174.6g	154.8g	
7/23	182.6g	164.2g (放野)	

○図鑑○ NO.11

・ツミ *Accipiter gularis*

タカ目タカ科

日本最小のタカ類。体は少し細身で、キジバトより少し小さい。主に鳥類を採食するが、ネズミや大型昆虫類なども食べる。

渡り期は一羽で飛び、群れることはない。多くは3~4月に渡来して繁殖し、雛は7月頃に巣立つと、森などの安全な所へと徐々に移動する。

神奈川県では夏鳥または留鳥として森林に生息するが、少ない。

繁殖は低地林での記録が多く、市街地の公園や緑地でも記録されている。

また、神奈川県レッドデータブック(2006年)では、繁殖期は絶滅危惧Ⅱ類、非繁殖期は希少種とされている。

※参考文献

- ・ 叶内拓哉(2005): ポケット図鑑 日本の鳥 300, P75, 文一総合出版, 東京.
- ・ 日本野鳥の会 神奈川支部(2007): 神奈川の鳥 2001-2005, 神奈川.

猛禽類の野生復帰訓練では、通常飛行訓練をしません。しかし、ツミは非常に神経質で、野外での飛行訓練はリスクが高いため行いません。適度な広さの小屋の中に放し自分の力で飛んでもらい、なるべく野生に近い餌(ネズミ、小鳥、バッタなど)を食べさせます。それでも放野した時、かなりの飛行技術を見せてくれます。小屋の広さも重要で、あまり広い小屋だと小屋の中で加速がつきすぎてブレーキが間に合わず、衝突死してしまいます。これはツミ特有の注意事項です。

外の小屋での新しい生活が始まった2羽は、翌日には置き餌を食べ、7月10日には生きているマウスをしっかり捕まえて食べるできるようになりました。特に1号は活発に小屋の中で動き回り、人の姿を見るだけで暴れていました。

<新しい仲間、そして別れ>

2011年7月13日に新しく、幼い3号(157.8g)が預けられました。1号は相変わらず活発で、放野の準備ができたときとみなし、放野することになりました。しかし台風6号が近づいているため、

放野は延期することになりました。

7月19日に台風が上陸、小屋の中で1号が死亡しているのが発見されました。餌は十分あげているため、共食いは考えられず、台風の音に驚いて、衝突したのだと推測されます。台風が来る前に放野できていたらと思うと、非常に残念です。他の2羽はその後、家の中に避難させました。

7月23日、ついに放野の時がやってきました。2号と3号は保全センターの野外施設で沢山の人々に見送られながら、自然界へ帰って行きました。1号の分まで元気に長生きしてほしいですね。



2011年7月1日 ツミ1号

活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。

七沢ふれあいセンター環境教育

5月12日厚木市の「七沢ふれあいセンター」において厚木市立清水小学校の5年生、約170名を対象に夜間環境教育を開催しました。

自然の中で野生動物について学び、直接触れ合う学習に楽しさと驚きで子供たちの目は輝いてました。



野生動物救護ボランティア講習会

平成23年度 野生動物救護ボランティア講習会を神奈川県自然環境保全センター、神奈川県獣医師会、NPO法人野生動物救護の会の3団体共催で5月21、22日の2日間にわたり開催しました。

今年も募集人員30名のところ、多数の方々の応募があり、皆様の熱い思いを生かすべく70名以上の方に受講して頂きました。

初日は野生動物に関する法律や救護活動など、それぞれ専門分野の先生方に講義をして頂き、2日目の午前中は講義の他に先輩ボランティアによる体験談を交えた実際の活動内容を話しました。そして午後からは5つのグループにわかれてエサの種類や救護の仕方、傷病舎の見学などの実習を体験して頂きました。雨の中、移動や屋外施設の見学など大変でしたが、受講生の方たちは熱心に見学したり、スタッフに質問をしたりしていました。

この2日間の講習会の後は、いよいよ保全センターでの実習です。8月末までに保全センターで3日間の実習を終えると「野生動物救護ボランティア」として登録されます。

野生動物のために1人でも多くのボランティアさんが活躍されることを願っています。
いっしょに頑張っていきましょう！



野生生物保護功労者感謝状 授与式

野生動物救護の会の日頃の地道な活動が評価され（財）日本鳥類保護連盟から感謝状を授与されました。授与式は、6月1日 秦野市役所において行われ、古谷義幸市長から渡辺理事長が、皆さんを代表して受け取りました。授与後は、市長と秦野の自然や野生動物と人間との共生問題などを語り合い、これからも救護の会の前向きな活動を期待していると励ましのお言葉を頂きました。

この晴れがましい授与は、会員の皆様が「力」を合わせてがんばっていることへのご褒美だと思います。感謝状は、保全センターのボランティア室に置いてありますので、ぜひご覧になって下さい。そして「一羽、一頭でも多くの野生復帰をめざして」をモットーに私達の活動を一步一步着実に進めて行きましょう！



渡辺理事長と古谷義幸市長

宮ヶ瀬湖 探鳥会

6月4日に宮ヶ瀬湖周辺で探鳥会を行いました。今回は特別に東林間野鳥の会で活躍されている石田スーザン先生も同行して下さい、細かいところまで詳しく説明して下さいだったので、大変勉強になる観察会でした。

東林間野鳥の会の方々も合流された総勢17人のにぎやかな観察となり、見聞きした鳥は以下の23種+αになります。
カワウ、ミサゴ、トビ、キジバト、ツツドリ、ホトトギス、ツバメ、イワツバメ、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、ヒガラ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、スズメ、カケス、ハシブトガラス、ガビチョウ、αは何と2匹のテンです！

総会＋特別講演

6月26日に2010年度通常総会が開催されました。（詳しくはP2-3参照）

そして総会後の特別講演として野鳥研究家でシンガーソングライターの「♪鳥くん」こと永井真人氏をお招きし歌と野鳥にまつわる楽しいお話をしていただきました。

会場の皆が思いを託したメッセージから即席で素晴らしい歌が出来あがりました。



「生きる力」

ネクタイしめてシジュウカラ
おヒガラも良く蝶ネクタイ
ヤマガラ ベンガラ、赤茶色
コガラな子供のベレー帽



コンクリートの護岸じゃなければいけないの？
アシのシゲル土の河原じゃいけないの

*飛べない鳥をとばしてあげたい
みんながしあわせになれるといいね
雨に濡れ 風にあたり 季節を感じて生きていこう

曲は「♪鳥くん」のHP

(<http://www.nagaimasato.com/event/2011/>)

で聴くことができます。

次回はお休みします



フルフルってどんなヤツ?

もちろんプルプルは種名ではありません。2年前に保護され保全センターにいるタヌキです。

一般的なタヌキについての説明は RUNNER vol.5 に載っておりますので、ご参照ください。



受付 No: 090528

受付日: 2009年9月20日

プルプルは海老名市の道路の用水路を歩いていたところを保護されました。保護時は授乳後の幼獣でしたが、年のわりには小さく、疥癬症も患っていました。しかも、後ろ足の付け根は骨折しているのか、とても腫れあがっていました。

結局両後肢とも自分で曲げることができず、前足のみで体を移動させることとなりました。最近はまだ見なくなりましたが、以前はたまに後肢が痙攣

して震えていたことから「プルプル」と名付けられました。

フルフルの日常と好き嫌い

プルプルはタヌキ用の水入れを入れてあげてもすぐにひっくり返して水をこぼしてしまいます。そして水入れの裏を一生懸命前足で叩くのです。もしかしてドラマーになりたかったのでしょうか…?!

みんなが他の動物の治療にあたっていたり作業していたりして、誰もかまってくれないとドラムを叩き始めたりきゅう〜んと鳴くくせに、近寄るとウー…と怒ります。怒っているときでも鼻には触らせてくれるし、タオルを入れてあげるといそいそとベッドメイキングをし始める…なんともツンデレなタヌキさんです。

また、体を自由に動かせないため、お尻の周りに床ずれができやすいし、保護されたときから毎日のように治療を受けていたため、首根っこを触ると捕まえられる=また痛いことされると認識してしまったのか、とても嫌がりうなります。でも首を触られるのは嫌いだけど、鼻の上と背中なでられるのは好き。あんなにうなっていたのにすっかり気持ち良い顔をしていることもあります。とは言えどプルプルだってあくまで野生動物なので、咬みつかれる可能性もあるので注意してくださいね!



目指せエデュケーションアニマル!

プルプルは過去に一度だけ保全センターを離れて、私の家に1週間ほど短期里子に出たことがあります。

プルプルを連れて帰ったときに、まずはあのタヌ

キ臭を少しでも軽減するためにお風呂へ。意外とすんなり入れさせてくれ、その後は家の中を適当に歩き回らせてみましたが、何気に肝が据わっているとか、何にでも興味を示してうろうろしていました。椅子に座り、膝の上でドライヤーでプルプルの体を乾かしていると、全く動かずに噛みつこうともせずまるで小型犬か猫のように寝てしまいました。



横顔美人♪

ご飯は必ず一粒ずつ手からドッグフードをあげてみました。人差し指と親指でドッグフードをつまみ、おそろおそろプルプルの口元に近づけてみると、プルプルは私の手を噛まずに器用にドッグフードを食べました。まあなんてお利口さん！！と感激し

つつ、徐々にステップアップ。最初はサークルの中に手を入れて一粒ずつ食べさせていましたが、段々とサークル外へと誘いだしてみると、おっかなびっくり出て来たりもしました。こんな時、少しプルプルとの距離が近くなった気がします。

お互いに少しずつでも慣れていければ、一生人間と接していかなければならないプルプルへの負担やストレスも減り、日常の世話や治療もスムーズに進み、さらにはエデュケーションアニマルとしてみなさんの前に立つことができれば最高ですね！



落ち着けば抱っこもOK!

番外編～フル2号??～

受付 No.: 110372 受付日: 2011年7月6日

110372 疥癬治療中



この子は疥癬症を患い弱ってしまったのか、相模原市の民家の庭で横たわっていたところを保護され、保全センターに持ち込まれた時には体重が2.15kgしかありませんでした(通常3~6kg)。しかもこの子、後足が両足とも全く曲げることができません。疥癬症にかかっていたり、足が動かなかったりと、なんとなくプルプルに似た点が！

しかし、持ち運ばれた時には後足の筋肉はすでに萎縮していたため、もしかしたら長い間この後足で生活していたのかもしれませんが。長い間使われていない筋肉は衰え、足は細くなってしまいます。今まで近くのえさ場で一生懸命しのいでいたのでしょうか…。

言葉をしゃべらない動物、特にぎりぎりまで辛さを見せない野生動物…どうしたの?なんて聞けないし、なかなか判断に困るときがありますが、この子にとって一番良い選択ができると良いですね。

保全センターに来た際には、2匹が床ずれにならないように、是非タオルを入れてあげてくださいね！！

帰って来たアオサギ!

再び舞い降りた困ったやつ

二〇一〇年の大晦日、保全センターのフライングケージ周辺をよたよたと歩くアオサギが発見され、保護された(一、二五〇g)。彼(仮名)は以前保護され、一月二四日に放野されたアオサギだった。彼が最初保護されたのは一月一六日のこと。小田原の畑の中で起立できずひどく痩せていた(一、六五〇g)。しばらく保全センターにて保護し、二月二四日に保全センター近くの池に放野した(一、七五〇g)。通常、そのまま自然界へ戻り、野生復帰していくのだが、彼のように戻ってきてしまう動物たちもいる。しかし、再び保護されるのは稀なことだ。



手前：帰ってきたアオサギ (100529)
奥：フライングケージ内のアオサギ
(写真提供 池谷智志氏、
12月30日保全センターにて)

翌年一月一三日、彼は再び自然界へ帰っていった(一、六五〇g)。今度は戻って来ないよう相模川で放野した。これで二度と戻ってこないだろう…。しかし彼は再び戻ってきた。一月一五日にフライングケージ周辺に出没したのだ。しかもエサ配りの際に魚を奪っていく。人間が注意することで、魚を奪われることはなくなったが、その後も毎日のように出没した。一月三〇日には、NEWハウスの上で休んでいるとの記録が残っている。最近は見かけないようだが、三月一日の大震災以降も度々目撃されている。保全センターの職員は「ダンボールで放野場所まで運ばれているので、景色を一切みていない。戻ってこられたのは不思議だ」と話している。鳥の能力には驚かされることばかりだ。

フクロウのヒナを保護

無事に巣へ戻す

二〇一一年五月二日、保全センター近くの森でフクロウのヒナが保護された。前の晩に吹いていた風におおられて落ちたようだ。一度は保全センターへ運ばれたが、近くに巣があると考えヒナが落ちていた周辺の木を探し、樹洞を発見。その中には同じサイズのフクロウのヒナがいた。発見者の森林組合の人が長い梯子を使い、無事に巣内へヒナを戻すことができた。



フクロウのヒナ

ベビーラッシュュ!

今春、保全センター内でトビ一羽とタヌキ二頭が子供を産んだ。残念ながら、ほとんどの子供は死んでしまい、子タヌキ一頭しか生きていないが、すくすくと成長を続けている。現在は大きくなり、母親と別のケージに入っている。



㊦トビのヒナ (5月5日)
㊦タヌキと子供 (7月13日)



ボランティア雑感



保全センターのツバメとメジロの里親をしているボランティアの塩沢さん。
今回はその鳥たちの食生活(?)についてのお話です。

「ブドウムシは贅沢品?!」

長期飼養でお預かりしているツバメ2羽と、短期飼養(長期化?!)しているメジロ1羽のために、少しでも栄養価の高いエサを探していました。

某ペットショップで、ブドウムシとシルクワーム(蚕の幼虫)を見つけたので、それをあげたいと思い、保全センターの職員の加藤先生に相談したところ、保全センターでは以前、シルクワームの蛹を使用していた事があり、ミルワームよりかなり栄養があるということでした。価格はミルワームより高いですが、栄養があるなら与えてみようかと購入しました。

まずはメジロ。ブドウムシの頭をくわえ、止まり木にパンパンと音をたて(音は布団叩きに似ています)中身が飛び出すのではないかと思うぐらい、めいっっぱい叩きつけ、頭から飲み込みます。1匹では足りず、カゴにへばり付いて催促。ミルワームには、見向きもしなかったのに…。ハニーワームと言われるぐらいなので、甘くてクリーミー? 喉越しが良い?



メジロ

次はツバメ達。1匹見せただけで『ギャー!』と、今まで聞いた事がない声を出し、ブドウムシ争奪戦が始まりました。

1羽がブドウムシを横にしてくわえると、もう1羽が嘴からはみ出ている部分に食いつき、なんとかして横取りをしようとしています。ちぎれそうでちぎれないブドウムシ。メジロと違って、胴体から飲み込みます。1度与えたら虜になってしまい、今では絶対必要な餌となっていました。

そんな絶対必要な餌なのに、震災後、入荷が遅れる事が増え、1日2回1羽につき5匹ずつ与えていたのが、1回3匹に、1日3匹に、1日置きに…となってしまう、ブドウムシ命のツバメ1羽が、痩せていってしまいました。(18.5グラムから16グラムまで下がりました)

とうとう、1匹も与えられない日が3~4日も続き、メジロは囀りが無くなり、ツバメ達は目の輝きがなくなり、元気の無い日が続きました。

ある日、祈る思いで某ペットショップに行きましたら、山積みされたパック詰めブドウムシを発見! 今度いつ入荷されるのか判らないので、大量に購入。メジロ、ツバメ達に与えた瞬間、ツバメ達の争奪戦は激化! 痩せた1羽の体重は、1週間後に17グラムと増え、動きも活発になりました。メジロのブドウムシおねだり行動が増え、囀る時間も増えました。



ツバメ

ブドウムシの繁殖所は東北にあるそうで、現在も入荷が遅れがちです。試しに、シルクワームを与えてみると、メジロは止まり木に、ペチペチとシルクワームを叩き付け、シルクワームは無惨にも、頭と皮だけに…。しかもツバメは食べてもくれませんでした。(蚕、解雇!)

これから先、長期飼養で違う小鳥類を預かり、ブドウムシやシルクワームを与えて、観察してみようと思います。



ブドウムシ

★ブドウムシ豆知識★

その名の通り葡萄の木を食害する蛾の幼虫。
最近では蜂の巣に寄生する蛾の幼虫(ハニーワーム)が繁殖され、ブドウムシとして販売されていることが多い。



インフォメーション

イベント

- ◆動物フェスティバル 2011 in 湘南
▽日時 10/16(日)
▽場所 鎌倉由比ヶ浜海水浴場公園
- ◆ジャパンバードフェスティバル
▽日時 10/22(土)・23(日)
▽場所 我孫子市手賀沼親水公園
- ◆厚木市環境フェア
▽日時 10/30(日)
▽場所 厚木市中央公園
- ◆秦野市民まつり
▽日時 11/3(木)
▽場所 秦野中央運動公園

講演会

- ◆ボランティア研修会
「小笠原の自然の価値と保全」
▽講師 鈴木創 氏
▽日時 9/25(日)
▽場所 自然環境保全センター
- ◆野生動物保護セミナー in 関東
「傷ついた野生動物と向きあつて」
▽講師 渡辺優子 氏
▽日時 11/5(土)
▽場所 東京農業大学厚木キャンパス

環境教育

- ◆放課後子ども教室(1~6年生)
▽日時 10/11(火)
▽場所 相川小学校

* 詳細は当会ホームページをご覧ください *



毎月最終金曜日
秦野市立図書館衝突調査を手伝ってくださる方を募集しています!

募集中!

☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。
私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

- ★一般会員:どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000 円)
- ★学生会員:学生の方(年会費 1,000 円)
- ★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方
年会費:法人一口 5,000 円 個人一口 3,000 円 一口以上

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040
名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2011年9月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830
〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>
編集者 表紙絵:平沼亜矢子 総会:神崎さつき 今日のRUNNER:小松美絵
活動の現場から:平沼亜矢子 ランナー通りの住人たち:高橋恵
ボランティア雑感:塩沢直美 らんなー新聞:小松美絵 インフォメーション:神崎さつき